

日本が GDP 世界第 2 位になって鼻を高くしていた一時期、「国にとって大切なのは、GNP (国民総生産) ではなく、GNH (国民総幸福量) である」と演説をした国王の話が報道された。「我が国は GNH 国民総幸福量では世界に引けを取らない」とのブータン国王の発言は小生には物凄い驚きであった。国の為政者が国民の幸福を願うことは、表面上は当然のことではあるが、その当然を実行することは最高に困難な事であることが世界の歴史ではっきりしているからである。言葉巧みに国民を操る一方、幸せになれるのは国王に繋がる一族郎党、そして金や利権に群がる軍や一部の経済界だけというのが、どんな政治形態でも似たような構造だからであり、一般国民は虐げられ、幸せ等夢の又夢というのが相場だからである。しかし、ブータンでは国民の 97% が幸せと感じているとのことのお話に、仰天したのである。

会社等多くの組織はその成果 (output) を最大にすることが求められており、4 半期ごとに経営者の指導力が試されている。しかし、高い業績を維持することは並大抵の努力では出来ない。勿論、成果はかなりの確率で経営者や社員の努力に比例する。だが、Output を受け取る側は様ではない。他社が更に良いものを出せばそちらに流れ、物は売れないし、サービスは悪いと言われる。Output に対する評価、即ち Outcome はそう簡単には OK が出ないのである。

政治に関して言えば、国王の為政者としての能力と努力の結果 (Output) を、国民が幸せと感じるか (Outcome) は、単純には比例はしない為、為政者が良かれと思って実施したことでも、それを良しとされるかどうかは判らない。だから、国民の 97% が幸せと感じているとのことのお話も、驚きと共に、本当だろうかという疑念が消えなかった。

一般に幸せ感や不幸せ感は絶対的なものではなく、相対的、他者との比較で発生すると言われている。自分より惨めな境遇の人を左に見ると、自分の幸せを感じ、自分より更に良い境遇の人を右に見ると、自分の不幸せを感じるのである。

従って長い間鎖国状態にあり、他国の情報が無く比較するものがないので不満は感じて来なかった国民が、開国して驚くほどの情報が押し寄せた場合にも、同じ様な幸せ感を維持出来るかどうか問題であり、又もし本当に幸せ感を維持出来るなら、将に日本の進むべき道へのヒントがあると思える。このような事から、小生は折に触れブータンの資料を読み漁ったが今一その真の姿は判らなかった。そこへ今回の西岡さんの講演、とても期待していた。

西岡さんはたくさんの写真と共に、ご主人の農業指導の様子やブータンでの各種思い出、ご自分の目で見たと、感じた事、遭遇したことを飾らない言葉でお話してくれた。

それらを通じ、ご夫妻がブータンでごく自然に受け入れられ、しかも現地の人に愛されて来たことが良く判った。そして、それらを総合して、小生としては次の様な感想を得た。

1. 九州位の面積の温帯ではあるが、低地 (千メートル台) から高地 (2~3 千メートル台、最高 7 千メートル台) の起伏に富んだ土地に約 70 万人。外界から非常に隔たれている。
2. 四季があり、自然に恵まれ、肥沃な土地での農業や牧畜で基本的な生活が可能。一見貧しそうに見

えるが、普通に働けば食糧等最低限の生活必需品は無理せずに入手出来る為、生活する分には困らない。基本的には物々交換で生活出来、あくせくと、貨幣を稼ぐ必要がない。

3. しかし、寒暖の変化が大きい為、きちんと働き、家を持たないと生活出来ない為、人は勤勉である。母系社会である為、女性の立場はかなり強く、外部へ繋がる男社会と家や財産を守る女社会が上手く機能している。

4. 鉄道は無く、起伏の激しい土地柄、国内を旅するのは非常に大変。主要な交通手段は最近入って来た自動車であるが、道路が整備されているところは未だ少なく、基本的に人の移動はごく限られている。この為、他との比較はそれ程出来ないし、する必要もない。

5. 仏教が国教であり、祭事や仏事等だけではなく、学校教育やお寺での修行、修行僧を出す事等、仏教が生活の隅々迄入って来ている。仏教が根底にある為、殺生を嫌い、物を大切に、人や人の心を大切に作る習慣を幼少の時より身に付けている。

6. 国教が仏教と言う所為もあろうが、統治する国王が世襲ながら、代々傑出した人々で、通常の西欧的な金銭感覚に基づく政ごとではなく、常に国民を考え、又補佐する政府要人も一緒に国の有り方を考え、長い目で国の進路を決めている様に思える。

7. 政府自体が、諸外国からの支援を当てにする様なタカリの姿勢がなく、急激な技術革新等による経済活動、過当競争等による自然破壊等より、自然を大切に、自給自足で生活出来るレベルで良いとし、それより、心の平安、幸せ感を大切にしている様である。

従って、財産の多寡等で人を評価する等は希薄で、本当に現代の桃源郷の様なお国柄と思えた。

8. 政府は観光による外貨獲得を目指している様であるが、桃源郷を見ようと多くの旅行者が増えると予想される。(かく言う小生も是非行きたい一人である。)しかし、その為には交通網の整備と共に、ホテル等へのかかりな投資も必要となろう。関わる人も多くなり、農業、牧畜の生活に依存しない人たちが増え、生活様式が徐々に変わってくる。諸外国からの情報も多くなって来るだろう。

9. 既に、テレビ等が導入され始めたとの話であるが、未だ普及率も低く、現在は未だ大きな影響力は出ていないと思われる。今後各家庭に TV が普及し、交通網が整備され、移動が日常的になって来て、人々の生活形態が変わって来た時、桃源郷がそのまま維持できるかどうかは、やはり未だ良く見えて来ない。

10. 桃源郷はそっとして置きたいとも思うが、国の発展の為にはそうも行くまい。しかし、どの様な形での発展が望ましいのか、国王もさぞ気がかりであろうと思う。その意味からも、ブータンの農業発展の為に長期間指導され、地元の方々の農業の質を高め、農作物の多様性をもたらし、生活の質を改善されたご夫妻の壮大な努力は、将にブータンへの貢献であり、望ましい変化であつたのではと思われる。只、只、敬意である。本当にご苦労様と申し上げたい。

小生としては、出来れば、変わってしまう前の桃源郷を、是非自分の目で確かめて置きたいと思う。(英)